

【活動レポート】 2022.11.20 大丸有 SDGs ACT5
盤州干潟「アマモ場現地体験会」事後ワークショップ

「ブルーカーボン～浅瀬の役割」

伊東久枝・大浦佳代（LAB to CLASS プロジェクト/海の世界教育 NPO bridge）



写真提供：古川恵太
（海辺つくり研究会）

◎概要

10/17 に都内で行われた『ブルーカーボンセミナー』、ワークショップの直前に実施された『盤州干潟 アマモ場観察会』と続いたイベントの一環として、ふり返りを兼ねた1時間のワークショップを担当させていただきました。

江戸時代には、東京湾（当時の江戸湾）の水ぎわを「アマモ場」と「海苔の養殖場」がぐるりと連なり、この“浅瀬の海”こそが東京湾の原風景と言われます。その風景が今も残るのが、千葉県木更津市にある盤州干潟です。

一方、政府が「2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロを目指す」と宣言をした「カーボンニュートラル」。それにより、注目を集めているのが「ブルーカーボン」。

しかし、「二酸化炭素の削減」という数字の世界ではなく、本来持つアマモ場とそこに連なる浅瀬の多様な役割を理解してほしいという思いから、食物連鎖のカードゲームなども交えたワークショップを実施しました。

参加者の想像を超えた、盤州干潟や東京湾の魚介類の豊富さ、陸上同様に「海の生物の基盤を支える」のは、海草（アマモ）や海藻、プランクトンという「植物」であるということ。そして、浅瀬の消失はこの「海の植物」の生育場所の減少だけでなく、食物連鎖における「中位捕食者」の欠落にもつながり、結果として私たち人間の「食」の基盤を揺るがしている、という現実。それら、東京湾が抱えている問題と浅瀬のポテンシャルを、参加者（＝周辺で暮らす都市生活者）とともに、自らの暮らしとつなげて考えてみました。

- ◆テーマ：浅瀬の役割「ブルーカーボンと海の生物多様性～2つの価値」
- ◆目標：「浅瀬の重要性」を確認する
- ◆実施時間：1時間
- ◆会場：盤州干潟（千葉県木更津市）見立て海岸休憩所
- ◆対象者：大丸有 SDGs ACT5「ブルーカーボンセミナー」参加者および家族 24名
- ◆使用教材：海洋学習教材 LAB to CLASS <https://lab2c.net>
 《海の生きもの、椅子取りゲーム》掲載教材「海の生きものカード」
 《餌の餌の餌は何？》
- ◆主催：大丸有 SDGs ACT5 <https://act-5.jp>
- ◆受託元：特定非営利活動法人 海辺つくり研究会
- ◆協力：木更津市観光協会 DMO 推進事業部

◎活動の様子

【アマモ場 現地観察会：盤州干潟浅瀬】 実施：海辺つくり研究会



木更津市沿岸に広がる盤州干潟は、江戸時代から続く“東京湾の原風景”を今に伝える貴重な地域です。現在も広大な浅瀬を利用して、冬場には一面に“海苔ひび*”が連なり海苔漁が盛んに行われています。そして、その間に点在するのが、海の小さな森「アマモ場」です。

そこは多様な生きものたちの住処。陸上とは異なる、生きものたちの宇宙が広がっていました。

*注：海苔を付着させるための網



←水中に繁る「アマモ」。凪いだ日は、水中の透明度の高さに東京湾のイメージが一新する

↓アマモの間で小さなイカ発見

↓アマモの葉と見紛うヨウジウオ



【体験後 ワークショップ】 実施：特非) 海の環境教育 NPO bridge

◎アイスブレイク：海の生きもののクイズ



↑「実際に見たことがあるもの」「東京湾にいるもの」「盤州干潟にいるもの」「食べたことがあるもの」…意外な結果に新たな発見も！

「海の生きもののカード」**→
多くの人知っている海の生きもの。
でも生態は、どのくらい知っている？



ふり回りワークショップでは、最初にアイスブレイクを兼ねて、身近な海の生きものが描かれた「カード」を使い、生息場所や体の特徴などを学ぶクイズを実施。午前中のアマモ場の体験から少し離れて、海の生きもの全体に、そして自分と海の生物とのつながりに気づき、東京湾や盤州干潟を少し身近な存在に感じてもらいました。

**注：「海の生きもののカード」は以下より無料ダウンロードができます。
海洋学習教材サイト『LAB to CLASS』
<https://lab2c.net/materials/海の生きもの/127>

◎海の世界連鎖「餌の餌の餌は何？」



東京湾には小さなエビや貝類から、野鳥、ときには大型のクジラまで来遊することに驚き、さらにその多くが盤州干潟や沖合にいる！ことを知った後は、カード教材《餌の餌の餌は何？》を使って、海の生態系の仕組みを一緒に学びました。マイクロプラスチックがどのように生物に取り込まれていくのか、日本沿岸のバラエティに飛んだ生物相、海ならではの複雑な「生態網」など。

「食材」としての魚介類が、自分自身と同じ命の「環（網）」のなかにある生命であることを再認識しました。



↑自分のカードに描かれている絵をヒントに、同一の生態系の仲間を探す『LAB to CLASS』教材《餌の餌の餌は何？》<https://lab2c.net/>



◎ミニレクチャー：干潟とアマモ場～その構造と東京湾のポテンシャル



ワークショップの後半は、当日は潮が満ちていたため見る事ができなかった盤州干潟の広大な干潟面とそこに暮らす生物の一端を写真で見てくださいました。

そして、冷蔵技術のなかった江戸時代に「江戸前鮓」誕生を支えた東京湾（旧江戸湾）のかつての環境と、都市化に伴った東京湾の変換と海の自然の変化などをお伝えしました。

最後には、木更津市観光協会から多様な地元の取り組みもご紹介いただき、ブルーカーボンで注目を集める「アマモ場」の保全から、少し視点を広げて“東京湾全体の保全と活用”を考える機会になっていただけたのではないかと思います。



◎実施後の感想 *参加者振り返りシートから抜粋

1) びっくりしたこと、感動したこと等

サザナミフグ*を見れた。 *注：死滅回遊魚

3種類のヨウジウオを見れた！

多様な生物が生息していること。盤州干潟の広さに驚いた。

生きものの多さに驚きました。特に実際に植物プランクトン動物プランクトンを見れた事。

動物プランクトンが豊富だったこと。

東京湾に想像以上にたくさんの生き物がいた。

東京湾の豊かな生態系。

沖にも浅い海があることに驚いた。浅い干潟 アマモ沢山。

漁港にたくさんカモメがいる。

意外と人工物のすぐそばに（干潟が）広がっている。

2) 今からやろう！と思うこと

東京湾にいる生物が減っていくので、大事にしたい。

海に行く！！ シーカヤックに乗ってみたいです。

すだて遊びにくる！ また木更津に来たい！

もっと海や川など現場に行こうと思います。

(自分が) 食物連鎖の一番後ろにいる。食べた後のことを考えていく。

日常生活でプラスチックゴミを減らす。

マイクロプラスチックをどうやったら減らせるのか？

ゴミをしっかりと分別する。

プラスチックゴミの削減。

マイクロプラスチックを減らすことを考える。

江戸前の寿司を有難くいただく。

アサリを食べる。

食べる。

東京湾をみんなで守っていききたい。

豊かな森、豊かな海の保全活動。

◎進行表

時間		実施項目	内容	補足
9:30	60	アマモ場現地観察会	アマモ場および海中生物の観察	
10:30	30	移動		
11:00	2	挨拶 (導入)		
11:02	10	身近な海の生物を再認識する ～海の生きものクイズ (アイスブレイク兼ねる)	身近な海の生きものが描かれた「カード」を使い、生息場所や体の特徴などをクイズ形式で学ぶ Q例：泳ぐもの、東京湾にいるもの、食べたことがあるもの等	・可能であれば、「立つ/しゃがむ」などの動作を入れる。 【狙い】 ●東京湾、盤州干潟の生物の豊かさを知る ●人間は「海食物連鎖の頂点」にいることに気づく > 必要備品：LTC教材「海の生きものカード」
11:12	25	海食物連鎖を知る ～餌の餌の餌は何？	教材「カード」に描かれている絵をヒントに、同じ食物連鎖の人を探しグループになる。 複数の食物連鎖を比べ、その多様性と基盤となる「植物」、マイクロプラスチックの生態系への取り込まれ方などを確認。	【狙い】 ●海の生態系の基盤をなす「植物」を認識する ●中位捕食者の重要性を知る ●海の生態系の特徴「食物網」 > 必要備品：LTC教材《餌の餌の餌は何？》
11:37	10	干潟とアマモ場 (まとめ)	・干潟の地形の解説。アマモ場の位置。 浅瀬＝植物の増殖適性環境、小さな生物の隠れ場所、産卵場所 ・昔の東京湾：江戸時代はぐるりとアマモ場と海苔養殖場 ・江戸前鮎に見る東京湾の豊かさ (生物多様性) の変化 ・東京湾の原風景を保つ「盤州干潟」を知ってもらうために ～観光協会事業紹介	【狙い】 ●植物の生育に最適な「浅瀬」の再認識 ●東京湾の環境変化と水産資源への影響に気づく (生物多様性減少の現状認識) ●消費者の責任を考える (グリーンコンシューマー他) > 必要備品：プロジェクター/スクリーン/PC
11:47	10	振り返り	「びっくしたこと/今日からやること！」を個人で紙に記入し、発表をする。	・発表方法は、口頭 (グループor全体)、または掲示など、時間と人数によって判断 【狙い】 ●行動変容への促し > 必要備品：コピー用紙 (A5 人数×2) / ブロッカー等
11:57	3	全体のまとめ&主催者挨拶		
12:00		終了		